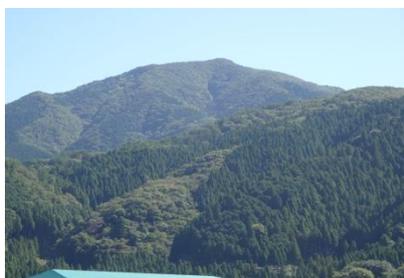
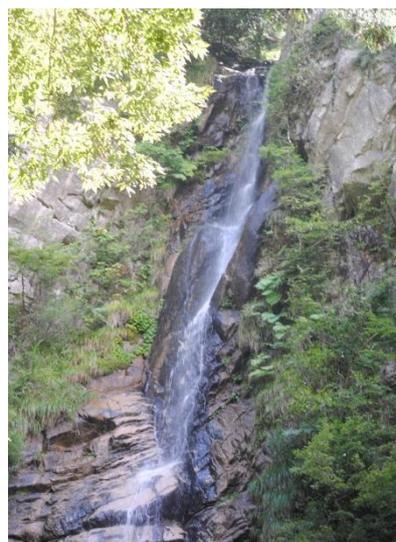


わたしたちのまち

日野町

【自然編】



鳥取県 日野町



日野町 ガイドマップ

至南町

至伯耆町

至米子市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至米子市

至伯耆町

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

至新見市

至新見市

至新見市

至新見市

至伯耆町

至伯耆町

至南町

至南町

至南町

至南町

目 次

I 「ふるさと日野町」を学習しよう	
1 はじめに	2
2 日野町の地形・地質	3
3 日野町の生物	4
(1) 町の鳥「オシドリ〔鴛鴦〕」	4
(2) 日本最小の赤とんぼ「ハッチョウトンボ〔八丁蜻蛉〕」	5
(3) 国の天然記念物「オオサンショウウオ〔大山椒魚〕」	6
II 「ふるさと日野町」の自然	
1 滝山公園周辺の自然	
(1) 地形・地質	7
(2) 植物	8
① 主な樹木	8
② 主な野生植物	9
③ 滝山公園のセッコク	12
(3) 動物	13
① チョウの仲間	13
② トンボの仲間	14
③ 水生生物	15
④ モリアオガエルとシュレーゲルアオガエル	16
(4) 滝山公園湿地の微生物	17
2 鶴の池公園周辺の自然	
(1) 地形・地質	18
(2) 植物	19
① 主な樹木	19
② 主な野生植物	20
(3) 動物	22
① チョウの仲間	22
② その他の昆虫（オトシブミの仲間）	24
3 日野川の自然	
(1) 地形・地質	25
(2) 動物	27
① 鳥類	27
② 魚類	28
③ 水生生物（魚類は除く）	29
④ 日野川に舞うゲンジボタル	31
4 宝仏山周辺の自然	
(1) 地形・地質	33
(2) 植物	34
① 主な樹木	34
② 主な野生植物	35
III 特別編 “ふるさと日野町の自然を愛した偉人 田淵行男”	
1 田淵行男さんの生涯	36
2 山岳写真	37
3 高山蝶生態研究写真	37
4 蝶の細密画	38
IV 資料編	
1 日野町の地質構成表	39
2 日野町の地質図	40

I 「ふるさと日野町」を学習しよう

1 はじめに

私たちの住んでいる日野町は、鳥取県の南西部に位置し、東西 20km、南北 12.5km、総面積 134.02 ㎢ そして岡山県、江府町、^{ほうき}伯耆町、南部町、日南町に接しています。また、町の中央部を^{つらぬ}貫く形で、一級河川の日野川が流れており、上流の黒坂地区には、親水公園の「カワコふれあい公園」、下流部の根雨地区には、「だんだん^{ぶち}淵公園」があり、町民の憩いの場所となっています。日野川の支流（黒坂地区）には、国の特別天然記念物のオオサンショウウオの生息地も点在しており、特に「^{こうじんばら}荒神原のオオサンショウウオの生息地」は、^{ゆいいつ}唯一、鳥取県指定の天然記念物に指定されています。また、根雨地区の支流である板井原川などは、カジカガエルの生息地であり、美しい鳴き声^{ひびわた}が響き渡っています。本流の日野川、特に舟場付近には、たくさんのゲンジボタルの乱舞^ふを見ることができ、見る人の心を癒してくれています。

しかし何ととっても日野川の風物詩と云えば、町の鳥（県の鳥）でもあるオシドリでしょう。11 月上旬から 3 月の終わりにかけて、1 千羽近いオシドリを初めとしたマガモ、コガモ、トモエガモなどの水鳥の楽園と化す日野川を、一度は観察小屋から見てみたいものです。



日野川（黒坂）



カワコふれあい公園



オオサンショウウオ（近江川）



オシドリ（日野川・根雨）



ゲンジボタルの乱舞【9枚合成】（日野川・舟場）

2 日野町の地形・地質

日野町は、鳥取県の南西部にあり、中国山地の北斜面に位置します。町の中央部を日野川が南西から北東に向かって流れ、その南北両側が高まりをつくる山岳地帯で、土地は主に山林として利用されています。

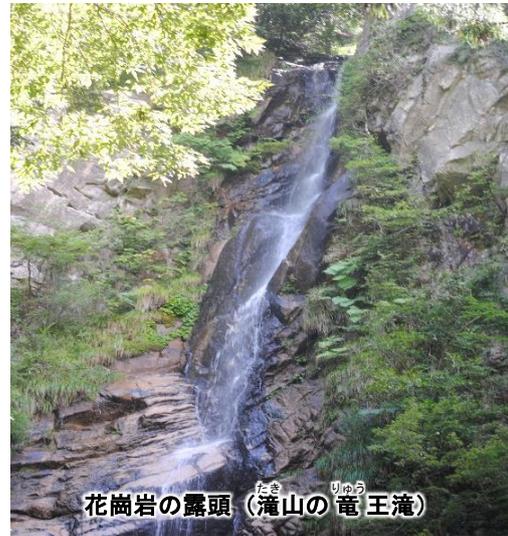
日野町の地質は、多くは中生代末期の花崗岩類からできていますが、細かく見ると、変成岩を含む複雑な地質の東半分（根雨地区）と単調な地質の西半分（黒坂地区）に分けることができます。

日野町の最も古い地質は、宝仏山をつくる三郡変成岩類です。中生代初期から中期（約2億年前）にかけて泥岩や玄武岩が変成作用を受けたもので、主に千枚岩や結晶片岩でできています。

中生代末期（約6500万年前）から古第三紀になると、大きく2回の花崗岩類の貫入を受けました。1回目は、町の東南部に分布する花崗岩類で、明地峠付近で産出する斑レイ岩は、三栗石と呼ばれています。2回目は、黒坂地区など町の西半分に広く分布している黒雲母花崗岩です。日野町の大部分は、この花崗岩類からできています。

時代がさらに新しくなり、約200万年前（第四紀更新世）には、根雨地区で火山活動が起きました。野路山は、火山活動でできた玄武岩の山で、お椀を伏せたような形をしています。国道180号線からは、玄武岩の柱状節理の露頭を見ることができます。

日野町で最も新しい地層は、日野川の流域に堆積しています。日野川は、時代とともに流れを変え、周りの土地を削っていきました。根雨や黒坂の町の周辺では、日野川が流路を変えた後にできる河岸段丘の地層を見ることができます。



花崗岩の露頭（滝山の竜王滝）



千枚岩の露頭（宝仏山中腹）



玄武岩の露頭（野路山）



河岸段丘の地層（小河内地区）

3 日野町の生物

(1) 町の鳥「オシドリ〔鴛鴦〕」(カモ目カモ科/Aix galericulata)

(分布)

日本では、北海道や本州中部より北で繁殖し、冬になると本州以南(主に西日本)へ南下し、越冬をします。オシドリは、一般的には留鳥ですが、冬鳥のように冬期になると国外から渡ってくることもあります。日野町には、11月頃から3月にかけて、やってくる冬鳥です。

(形態)

全長は45cm程度です。オスの嘴は紅色で、先端は白色です。背中に立ちあがっている橙色の大きい羽は、イチョウの葉のような形をしているので銀杏羽と呼ばれています。メスは全体が灰褐色で嘴は赤味をおびた黒色です。白い眼の回りの模様とそこからのびる白線が特徴です。

(生態)

湖沼、河川、溪流などに生息します。冬は群れで行動し、日中は樹木が水面におおいかぶさっている木陰や、水辺の樹上、水草などの中で休息しています。繁殖地区は雌雄で行動し、林内の池近くの大木などにできた穴に巣を作り、9～12個ほどの卵を生み、メスが抱卵した後、28日から30日程度で孵化し、40日から45日程度で飛翔できるようになります。食性は植物食傾向が強い雑食で、水生植物、果実、種子、昆虫などを食べます。日野町ではボランティアの方がドングリなどを与え、給餌をされています。



(2) 日本最小の赤トンボ「ハッチョウトンボ〔八丁蜻蛉〕」

(トンボ科ハッチョウトンボ属／*Nannophya pygmaea*)

(分布)

インド，中国，日本，東南アジアの熱帯地域を中心に広く分布しています。日本では青森県から鹿児島県に至る本州，四国，九州に分布していますが，離島には生息していません。環境省により生息場所の自然環境がよいことをしめす「環境指数昆虫」に指定され，保護されている場所もあり，すむ場所は限られています。長野県駒ヶ根市では市の昆虫に，和歌山県古座川町では町指定天然記念物に指定されています。

(形態)

ハッチョウトンボの体長は約 1.8cm で日本のトンボでは最小で世界でも 1 番小さいトンボの 1 つです。1 円玉の中に体が収まる程度の大きさです。オスは羽化したてでは，橙褐色 (橙 色) ですが，成熟すると鮮やかな赤色になります。メスは，成熟すると黄色と黒の模様ははっきりとしてきます。

(生態)

主に丘陵地の丈の短い植物の繁殖する湿地に生息しています。放棄水田や土砂採取跡の湿地でも見られ，日野町の場合，真砂土の採取跡地にあたります。日あたりが良く，モウセンゴケなどが生息している浅い水域が広がっているような環境を好みます。成虫は5月から9月に出現しますが，日野町では，6月から8月ごろ現れます。成熟したオスは1m四方で縄張りをはり，メスを待ち交尾をします。交尾は30秒から1分で終了し，その後メスは尾で水を打ちながら産卵をします。20日前後で孵化したヤゴは，捕食しながら越冬し春を待ちます。



ハッチョウトンボの生息する湿地 (滝山公園)

(3) 国の特別天然記念物「オオサンショウウオ〔大山椒魚〕」

(オオサンショウウオ科 オオサンショウウオ属 / *Andrias japonicus*)

(分布)

日本の固有種で岐阜県以西の本州、四国、大分県に分布しています。中でも鳥取県を含む中国山地はオオサンショウウオの主要な分布域となっています。

(形態)

オオサンショウウオは、大きく平べったい頭とずん胴な体をしています。後足の指は5本、前足の指は4本です。体の色は黄褐色ないし淡褐色の不規則な大小の斑紋（まだら模様）がありますが、個体差があります。オオサンショウウオは世界最大の両生類で、「生きて化石」とも言われています。日野川では、全長60～80cmくらいの個体が多いですが、最大で150cmになるものもいます。頭部の大きさに比較して目は非常に小さいのが特徴です。また体に刺激を与えると表面突起から白色の粘液を出します。この粘液は名の由来となった「山椒」の匂いに似ているといわれています。

(生態)

オオサンショウウオは夜行性で、普段は石の下や水辺に掘った巣穴などで休んでいます。一生を水中で過ごし、魚類やエビ、カニ、水生昆虫、両生類、ヘビなども捕食することがあります。繁殖期は8月から9月で、大型のオスが巣穴を守り、産卵で巣穴に入ってくるメスを待ちます。オスは一度に400個から500個のゼラチン質に包まれた数珠状の卵塊を産みます。卵はオスが守り、孵化した幼生が巣穴から出る1月から3月頃まで一緒に過ごします。えら呼吸から肺呼吸に変わる変態には4年から5年かかります。



オオサンショウウオのオスとメスの見分け方：オオサンショウウオのオスとメスは外見からは区別できません。求愛の時期には、オスの総排出腔の周辺が盛り上がるので区別できます。